令和2年度第1期小城市歴史資料館常設展示テーマ展

小城市内の肥前鳥居

　戦国時代末、肥前地方に忽然と出現した『肥前鳥居』と呼称される石造鳥居の特徴は、柱材が２ないし3本、笠木・島木・貫という構造材はすべて3本継で作られています。また、笠木と島木は一体的に削り出されていて、わずかな段差で区別され、先端部は牛の角を思わせるように尖がらせながら上方にやや反っています。

　小城市内で確認された肥前鳥居は17基で、時期が分かるものは戦国時代末の慶長2年（1597年）から江戸時代前期の延宝4年（1676年）までに建てられています。
また、肥前鳥居に似た鳥居で笠木・島木の先端部が尖らない明神型の石造鳥居も確認しました。これらは、主に江戸時代初期から元禄時代に建てられたものです。

　これらの、石造の鳥居には、数多くの銘文が刻まれて、現代の私たちに多くの情報を与えてくれています。
今回のテーマ展では、銘文のなかで、人物の名前に注目してみました。

期　間：令和2年4月14日（火）
　　　　～8月30日（日）
休館日：毎週月曜日・祝祭日

小城市内の肥前鳥居・明神型石造鳥居一覧

		神社名	記年銘	西暦	主な寄進者・願主銘	石工銘
肥前鳥居	1	牛尾神社（二の鳥居）	慶長２年	1597	國主 大檀那　鍋嶋信濃守豊臣勝茂朝臣	武富清右衛門允 武富宮王丸
	2	岩蔵天山神社（二の鳥居）	慶長17年	1612	鍋島直茂、勝茂、元茂、神代家良	
	3	生立ヶ里八幡神社	慶長17年	1612	持永助左衛門尉藤原朝臣茂盛	
	4	鏡神社	元和元年	1615	大願主 有田八右衛門藤原朝臣茂成	
	5	大天満神社	寛永５年	1628	願主 石井左兵衛尉藤原〇〇	大工 武富清右衛門尉盛利
	6	谷彦山権現	寛永10年	1633	本願主 武富源右衛門尉 平河甚左衛門尉	
	7	熊野神社	寛永16年	1639	大願主 武富源右衛門尉 平河甚左衛門尉	
	8	内砥川八幡神社（二の鳥居）	正保４年	1647	當代官 福地勘兵衛尉藤原重之	石匠　關屋孫右衛門尉 同石工 平河甚左衛門尉 同施巧 武富源右衛門尉
	9	妙見神社	慶安３年	1650	大願主 千葉玄蕃□□敬白	石大工 武富清右衛門尉盛紹 石小工 久本新右衛門尉
	10	牛尾神社一の鳥居	寛文元年	1661	大檀那四位侍従松平丹後守藤原朝臣 光茂公 朝叢太史藤原姓鍋島氏直能	
	11	八幡神社（上宮）（一の鳥居）	寛文２年	1662	領主 鍋島翁助藤原直氏	
	12	八幡神社（中宮）（一の鳥居）	寛文２年	1662	領主 鍋島翁助藤原直氏	
	13	岩蔵天山神社（一の鳥居）	寛文５年	1665	大願主 従五位下加賀守 藤原朝臣直能立	惣大工 丹宗権兵衛利永 惣石工 馬場新兵衛政利
	14	八幡神社（下宮）	寛文12年	1672	大宮司 土井武蔵藤原家人	
	15	西宮神社	延宝４年	1676	願主　大野輿兵衛 同　□右衛門益之 同　覺左衛門□□ 同　右衛門□□	石工 武富清右衛門増重
	16	八幡神社（上宮）（三の鳥居）	記年銘なし			
	17	諏訪神社（二の鳥居）	記年銘なし			
明神型石造鳥居	1	晴気天山社	元和３年	1617	鍋島勝茂、元茂、	
	2	八幡神社（中宮）（二の鳥居）	元和４年	1618	多久長門守藤原朝臣安順	肥前砥川石切刻壱
	3	彦山権現	寛文11年	1671	多久長門守藤原茂矩	
	4	常福寺弁財天	元禄10年	1697	領主 多久伊豆守藤原茂□ □主 多久□兵衛藤原辰俊	石工　□□ 施主　村中
	5	淀姫神社	元禄14年	1701		